

議会の今を伝える

2017. 2. 1 No.44

編集：議会だより編集委員会 印刷：有限会社 利根印刷所

発行：沼田市議会議長 星野 稔

〒378-8501 沼田市西倉内町780

TEL:0278-23-2111 FAX:0278-22-6333

沼田市議会 だより

12月定例会号



大規模改修のための実施設計業務委託料4,536万円の補正予算が可決された沼田市民体育館

議会日程表

日	会議	内容
6	本会議	開会 報告 提案理由の説明 質疑・討論・採決
8	本会議	一般質問（4人）
9	本会議	一般質問（4人）
12	本会議	一般質問（4人）
13	本会議	一般質問（1人） 質疑・討論・採決
14	委員会	総務文教常任委員会
15	委員会	民生福祉常任委員会
16	委員会	経済建設常任委員会
19	本会議	委員長報告 提案理由の説明 質疑・討論・採決 閉会

12月定例会の概要

去る9月の集中豪雨災害への復旧工事予算執行が復旧工事関連総額5,814万5,000円で専決決算として、議事に報告され、承認されました。

また、補正予算では、沼田市民体育館の老朽化による改修工事について提案がありました。

これは、ドイツフエンシングチームの東京オリンピック事前合宿会場使用にも間に合わせるために、平成30年度完了を目指して上程され、全会一致で可決されました。



かがやく沼田市創造
について
ふるさと納税につ
いて

高山 敏也 議員



観光施策について
本市における観光客
誘客に向けた取り組
みについて
分散型エネルギー推
進の取り組みにつ
いて

永井 敏博 議員

Q1 かがやく沼田市創造のために、2020年オリンピックを契機とし、同年に「わが町オリンピック」を開催することについて伺います。

A1 東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、本市においても事前合宿の誘致を行うなど、本市の活性化に向けた取り組みを進めているところであります。議員ご提案の「わが町オリンピック」の開催につきましては、オリンピックの開催を契機として、市民と行政が一体となつて地域の活性化に取り組むための施策と捉えさせていただ

Q2 本市ふるさと納税28年現在の寄附状況をお伺いします。

A2 11月末現在、610件、1,420万7千円、前年同期比43.6万5千の増加、今後も寄附の増額と本市特産品をPRしてまいりたいと考えております。

Q3 ふるさと納税の支援事業内容の充実と拡充について伺います。

A3 寄附金を財源とし実施する事業の区分を「教育・文化づくりに関する事業」、「保健・医療・福祉づくりに関する事業」、

Q4 消防団員の安全確保のための装備の充実について伺います。

「自然環境づくりに関する事業」、「都市基盤・生活環境づくりに関する事業」、「産業づくりに関する事業」及び「パートナーシップづくりに関する事業」の6つと定めております。これらの内容について、市の公式ホームページやふるさと納税専用サイト等において周知しております。今後は、事業の具体的な事業名等を例示することなどにより、寄附者が寄附しやすい環境整備を図ってまいりたいと考えております。

Q5 分散型エネルギー、小水力発電（利根町平川地区）の事業推進について伺います。

A5 平川地区における水力発電事業実施については、経済性の検討結果から慎重な対応を待っており、現在は、事業手法を再検討しているところであります。また、他地域での事業の取り組みも、今後引き続き発電可能箇所の調査を継続してまいりたいと考えております。

Q1 本市における観光地への誘客対策の取り組みについて伺います。

A1 大河ドラマ「真田丸」の効果により、上州沼田真田丸展をはじめ、沼田城址公園、中心市街地、市内観光施設等に多くの観光客に訪れていただいております。この効果を一過性のものにならないためにも、歴史資源を活用した観光PRの継続に加え、観光振興の柱である「食」や「自然」についても、観光協会等の関係者とともに、観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の発掘により、さらなる観光

Q2 観光案内所の継続について伺います。

A2 現在、沼田市観光協会に運営を委託しておりますが、今後の観光振興やおもてなしのためにも、引き続き開設していくとともに、さらなる観光誘客に繋げるため、人員体制や観光案内機能の充実についても検討してまいりたいと考えております。

Q3 目玉となる商品開発や新しい企画の取り組みについて伺います。

A3 上州沼田とんかつ街道によ

Q4 台湾南投魚池郷との交流について伺います。

A4 利根町出身の新井耕吉郎氏が台湾紅茶の発展に貢献されたことを縁に、昨年からは老神温泉観光協会を中心に、相互交流も活発化しております。まずは所管する観光協会と老神温泉観光協会との関係をより

Q5 消防団員の安全確保のための装備の充実については、現在の消防団員数は780人であり、全員にヘルメット、夏冬フアイターキャップ、夏冬活動服、防火衣、長靴、安全靴などを貸与しております。消防団は、組織化されたボランティア団体であるため、団役員会及び消防委員会において必要性が高いと決定された事項につきまして、財政状況を勘案の上、できる限り予算化していくと考えております。

Q1 本市における観光地への誘客対策の取り組みについて伺います。

A1 大河ドラマ「真田丸」の効果により、上州沼田真田丸展をはじめ、沼田城址公園、中心市街地、市内観光施設等に多くの観光客に訪れていただいております。この効果を一過性のものにならないためにも、歴史資源を活用した観光PRの継続に加え、観光振興の柱である「食」や「自然」についても、観光協会等の関係者とともに、観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の発掘により、さらなる観光

Q2 観光案内所の継続について伺います。

A2 現在、沼田市観光協会に運営を委託しておりますが、今後の観光振興やおもてなしのためにも、引き続き開設していくとともに、さらなる観光誘客に繋げるため、人員体制や観光案内機能の充実についても検討してまいりたいと考えております。

Q3 目玉となる商品開発や新しい企画の取り組みについて伺います。

A3 上州沼田とんかつ街道によ

Q4 台湾南投魚池郷との交流について伺います。

A4 利根町出身の新井耕吉郎氏が台湾紅茶の発展に貢献されたことを縁に、昨年からは老神温泉観光協会を中心に、相互交流も活発化しております。まずは所管する観光協会と老神温泉観光協会との関係をより

Q5 消防団員の安全確保のための装備の充実については、現在の消防団員数は780人であり、全員にヘルメット、夏冬フアイターキャップ、夏冬活動服、防火衣、長靴、安全靴などを貸与しております。消防団は、組織化されたボランティア団体であるため、団役員会及び消防委員会において必要性が高いと決定された事項につきまして、財政状況を勘案の上、できる限り予算化していくと考えております。

Q1 本市における観光地への誘客対策の取り組みについて伺います。

A1 大河ドラマ「真田丸」の効果により、上州沼田真田丸展をはじめ、沼田城址公園、中心市街地、市内観光施設等に多くの観光客に訪れていただいております。この効果を一過性のものにならないためにも、歴史資源を活用した観光PRの継続に加え、観光振興の柱である「食」や「自然」についても、観光協会等の関係者とともに、観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の発掘により、さらなる観光

Q2 観光案内所の継続について伺います。

A2 現在、沼田市観光協会に運営を委託しておりますが、今後の観光振興やおもてなしのためにも、引き続き開設していくとともに、さらなる観光誘客に繋げるため、人員体制や観光案内機能の充実についても検討してまいりたいと考えております。

Q3 目玉となる商品開発や新しい企画の取り組みについて伺います。

A3 上州沼田とんかつ街道によ

Q4 台湾南投魚池郷との交流について伺います。

A4 利根町出身の新井耕吉郎氏が台湾紅茶の発展に貢献されたことを縁に、昨年からは老神温泉観光協会を中心に、相互交流も活発化しております。まずは所管する観光協会と老神温泉観光協会との関係をより

Q5 消防団員の安全確保のための装備の充実については、現在の消防団員数は780人であり、全員にヘルメット、夏冬フアイターキャップ、夏冬活動服、防火衣、長靴、安全靴などを貸与しております。消防団は、組織化されたボランティア団体であるため、団役員会及び消防委員会において必要性が高いと決定された事項につきまして、財政状況を勘案の上、できる限り予算化していくと考えております。

正念場の中心市街地のまちづくり

第六次総合計画と中心市街地基本計画の見直し



本町通以上之町付近の様子

金子 浩隆 議員

Q1 第六次総合計画の今後10年間のまちづくりの中で、まさに正念場の中心市街地まちづくりの進め方について伺います。

A1 グリーンベル21が市庁舎を含めた複合施設として再生されることや、にぎわいの核として歴史と文化を中心とした整備を進める方針などを踏まえながら、まちづくりを進めていきます。

Q2 街なか再生実施本部と地権者の「活性化の会」とで協議を重ねてきた「中心市街地活性化基本計画の見直し」について、「新計画」の最終の取りまとめの段階に入っていると思います。

最終確定報告でなくても結構ですので、全体のグランドデザイン、まちづくりのコンセプトについての検討状況、検討の成果をお聞かせ下さい。

A2 今回の中心市街地活性化基本計画の見直しは、グリーンベル21の整備方針が決定したことや「にぎわいの核」や各街区の整備が進められたことを踏まえて、基本計画を見直すものです。

Q3 事業着手してからすでに17年、旧計画では残り事業期間は8年。事業の進捗率は平成27年度決算で総事業費148億円の事業費ベースで46・2%で、ま

だ半分以下です。

事業費約80億がこれからかかり、年4億ずつ投資しても、あと20年かかります。今後の「事業費」、「事業期間」はどう見直されたか伺います。

A3 事業の必要性や効率化を図りながら、事業費の圧縮に努め、見直しを進めていく考えです。事業期間は、建物移転を伴うことから、ある程度の期間を要することはやむを得ず、国・県と協議しながら、早期に事業完了ができるよう検討していく考えです。

Q4 本町通りの車道拡幅の検討

信器の現在の状況について伺います。

状況を伺います。

A4 仮換地指定した街区において建物移転にあわせて順次、道路整備を進めています。

Q5 6月議会で先行買収された空き地をまとめて換地し、グリーンベル東側に「新庁舎用の平面駐車場」を整備してはと提案し、「ありがたく検討させていたいただきます。」との答弁でしたが、現在の状況をお聞かせ下さい。

A5 住民説明会で、平面駐車場の要望を頂戴したことから、グリーンベル21の建物周辺において、平面駐車場用地の確保を検討している状況です。

沼田市の安全・安心について
有害鳥獣対策について

坂庭 直治 議員



ポールドウイン号

Q1 柿平地区の災害対応の経過について伺います。

A1 発災後の対応として、柿平へ利根支所職員、建設課職員を派遣し、情報収集にあたることにも、地域住民、消防団員、建設業協会の方々による土砂撤去等を開始し、今後の対策のため災害対策本部を設置しました。

Q2 危険性の高い場所の対応について伺います。

A2 土砂災害警戒区域等は、概ね5年ごとに、再調査の上、見直しを行うことになっており、急傾斜地の崩壊等について、県及び国と連携し、安全対策を講

じてまいりたいと考えております。

なお、土砂災害警戒区域外についても関係機関と協議していきたいと考えております。

Q3 防災面から見た森林管理とその発生材の活用について伺います。

A3 伐採後の林地では土砂災害の被害が生じるおそれがありますので、計画的な伐採や間伐材等の有効活用について、県や森林組合等、関係団体と協議を進めてまいりたいと考えております。

Q4 サル群に使用するGPS発

信器の現在の状況について伺います。

A4 平成26年11月から民間企業によるリアルタイムGPSシステム開発の実証実験を利根町で行っており、現在までに8頭のサルにGPSを装着し、位置や行動範囲などのデータ収集を行っております。

Q5 イノシシ・シカ・カモシカなど他の鳥獣の対策について伺います。

A5 イノシシ・シカ等の鳥獣被害の対策については、「沼田市鳥獣被害防止計画」に基づき、被害防止対策を推進していると

ころです。

なお、特別天然記念物であるカモシカの捕獲については、適正管理計画を作成し、国・県と協議のうえ、捕獲頭数を定めております。

Q6 森林鉄道の遺産活用について伺います。

A6 林野庁林業機械化センターが所管しているポールドウインをはじめとする鉄道車両については、全国的に見ても、大変貴重な遺産でありますので、関係機関等と協議し、観光資源として活用が図られるよう研究してまいりたいと考えております。



車道を歩く小学生

雪害対策について
がん検診について

井上 弘 議員



地域防災訓練の様子

市民との協働による
まちづくりについて
「地元かるた」の推進
について
防災のまちづくりの
推進について
防災士の養成につ
いて

桑原 敏彦 議員

Q1 道路の除雪・雪害対策の状況について伺います。
A1 本市では「除雪作業要領」を策定し、市内建設業者等に委託を行い、10センチメートルを超える積雪や路面凍結が予想される場合等、作業要領に則り出動しているほか、職員の直営において対応しています。倒木等で通行に支障のある場合などは、随時対応しています。
Q2 高齢者世帯・障害者世帯への除雪の対応について伺います。
A2 除雪の経費に対する助成制度は行っておりませんが、在宅の高齢者や障害者の方々につき

Q1 市民協働事業の取り組み状況と現状について伺います。
A1 平成22年1月には、NPOや地域コミュニティ、市民活動団体などの活動拠点として、市民活動センターを設置し、機材の貸出や相談事業、情報発信などの活動支援を行っており、平成28年11月末現在では、187団体が登録して利用いただいております。
また、地域の活性化や、課題解決に向けた市民の自主的な活動を対象にした市民協働によるまちづくり事業補助金の交付や、職員による出前講座の実施など

ましては、介護保険サービスや障害福祉サービスの訪問のなかで、サービス提供事業者と連携を図り、生活支援を行ってまいりたいと考えております。
Q3 危険な状態を少しでも減らしていくために、行政で足りない部分を自主防災組織やボランティアの方々と連携して補っていく体制作りが必要と考えますが、市長のお考えを伺います。
A3 地域でのボランティア活動の連携については、地域の役員さんをはじめ、民生委員・児童委員さん等の活動を通じて、地域ボランティアの活性化を検討

により、地域の市民活動支援に取り組んでおります。
Q2 沼田の豊かな自然の保全と歴史・文化を継承する「地元かるた」の推進について伺います。
A2 「地元かるた」としては、全国にも知名度を上げ、群馬県で幼少期を過ごした方なら知らない人はいないと言われております。「上毛かるた」があります。が、当市においても「沼田かるた」、「白沢いろはかるた」があります。
目的としましては、子どもたちをはじめ、市民の皆さんに「ふるさと沼田」をよく知って

していきたいと考えております。
Q4 がん検診の受診率向上に向けてどのように取り組み、どのような効果があったか伺います。
A4 対象となるがん検診に名前を印字した受診シールの郵送や、平成27年度から、子宮がん検診では21歳の女性、乳がん検診では41歳の女性を対象に、無料クーポンを配布しています。本年度からは、女性だけの検診日や、土日の検診日を設け、通知を受診シール方式に変更する前と比較し受診率が向上しています。
女性だけの検診日は好評でし

いただくためとしております。かるたを通して、遊びのなかで沼田の歴史や文化を学び、ふるさと沼田を理解し、親しみを感じていると考えております。
Q3 心豊かな暮らしを実現でき、元気で誇りと愛着の持てるまちを実現するための市民カレンダー等の作成について伺います。
A3 地元カレンダーの取り組みは、地域住民の皆さんの地域への関心や愛着を高めるためには、大変有意義なことであると思いますので、地元カレンダーの作成についても、市民協働を推進する上での参考にさせていただきます。

ただきたいと考えております。
Q4 地域防災のための自主防災組織の支援について伺います。
A4 「消防団経験者」や「地元事業者の協力」などとの連携は、自主防災組織の機能の充実・強化になるものと考えております。
Q5 防災士の現状と今後の養成について伺います。
A5 群馬県での取り組みも始まっていて「ぐんま地域防災アドバタイザー防災士養成講座」を開催しておりますので、資格取得にむけた気運の醸成を図り、防災まちづくりの推進に努めてまいりたいと考えております。
たが、日曜日の検診は初めての試みで周知不足もあり、期待どおりの受診に結びつかず、反省点であると考えております。
Q5 がん検診無料クーポンは、現在は5年に一度の交付ですが、受診率向上のために対象年齢拡大についての見解を伺います。
A5 無料クーポン券は、国が、がん検診受診促進等を目的に、補助事業として実施しているもので、事業ごとに対象の検診と年齢が定められています。
対象年齢拡大については、財政状況を勘案しながら研究してまいりたいと考えております。



保健福祉センター

障害者の就労支援の状況と課題について
障害者の工賃向上と作業や仕事の拡充策について
子どもや高齢者等への移動支援について

高柳 勝巳 議員



給食センター

女性消防団配置について
保育料負担軽減と給食費無料化について
学校給食の衛生管理と地元食材活用について
啓発教育の推進について
沼田特別支援学校新築工事の安全対策について

星野 妙子 議員

Q1 現在、コスモスでは、週末活動支援員を中心として、本年10月から月1回のペースで、週末クラブ活動（軽スポーツ等）を実施しているところですか。

A1 現在、コスモスでは、週末活動支援員を中心として、本年10月から月1回のペースで、週末クラブ活動（軽スポーツ等）を実施しているところですか。

Q2 生きた環境教育と障害者の作業創出として、食用廃油で石鹸を作り、学校等で購入・使用することについて伺います。

A2 少子・核家族化が進む中で、安心して子育てができる環境づくりは重要な課題です。保育・財政状況を勘案し取り組みます。

Q4 船橋市では、老人センターや自動車教習所の「送迎」を活用し、高齢者協力の支援バスを運行させて、通院等のお手伝いをしてもらっています。沼田市でも同様の視点で、こうした取り組みができないものか検討の有無や考え方を伺います。

A4 非常にすばらしい取り組みであると思います。このような取り組みについては、現在のところ検討していませんが、移動困難者への支援を議題として、先般、公共交通等における住民サービス連絡会議として関係各課で集まり、問題提起と情報共有を図ったところでした。

Q2 子育ての負担軽減と支援強化策として現在の第3子以降保育料無料化から第2子以降保育料無料化について伺います。

A1 女性の消防団参画は、女性活躍の推進と団員定数確保の観点から重要です。本団において人数や人員確保方法、活動内容について検討しています。

Q4 沼田給食センターにおける給食費無料化実施は子育て環境の充実や家庭で使うお金の経済効果が期待できますが、財政を圧迫する事から様々な角度から分析・検討してまいります。

A3 給食費無料化実施は子育て環境の充実や家庭で使うお金の経済効果が期待できますが、財政を圧迫する事から様々な角度から分析・検討してまいります。

Q6 小中学生から学ぶ「命」の啓発教育、不妊予防教育・がん教育・防災教育を伺います。

A6 不妊予防教育については具体

Q7 沼田特別支援学校新築工事に伴う在籍児童生徒及び東小児童の安全対策について伺います。

A7 周辺地域の方々への周知を図るとともに、工事車両出入りに対し児童の安全を第一に調整を行ってまいります。

Q3 沼田市保健福祉センターの通常清掃の障害者への委託の検討について伺います。

A3 障害者の作業創出としての観点からは、清掃業務についても取り組める可能性があると認識しております。今後、関係者と協議しながら研究してまいりたいと考えております。

Q3 みどり市では来年度から小中学校給食費完全無料化となります。本市の給食費無料化については財政面から市長の決断が必要だと思います。

A3 給食費無料化実施は子育て環境の充実や家庭で使うお金の経済効果が期待できますが、財政を圧迫する事から様々な角度から分析・検討してまいります。

Q5 本市学校給食における地元食材の活用と地産地消・食育について伺います。

A5 新鮮で安心・安全な地元食材を年間を通して30種類以上使用し市内産の使用率は約26%です。

Q4 食材の搬入経路を含む衛生管理について伺います。

A4 学校給食衛生管理基準に基づき、施設・設備の整理や管理及び食中毒防止に係わる衛生管理の徹底に努めております。

食材の搬入経路を含む衛生管理について伺います。

A2 少子・核家族化が進む中で、安心して子育てができる環境づくりは重要な課題です。保育・財政状況を勘案し取り組みます。

食料無料化実施について伺います。

A1 沼田市消防団員数は減員状態が続いている一方で、全国の女性消防団員は平成28年度4月現在23,894名と年々増加しています。

沼田市における女性消防団員の設置に向けた導入研究経過について伺います。

A1 女性の消防団参画は、女性活躍の推進と団員定数確保の観点から重要です。本団において人数や人員確保方法、活動内容について検討しています。

女性消防団配置について

保育料負担軽減と給食費無料化について

学校給食の衛生管理と地元食材活用について

啓発教育の推進について

沼田特別支援学校新築工事の安全対策について

女性消防団配置について

保育料負担軽減と給食費無料化について

学校給食の衛生管理と地元食材活用について

啓発教育の推進について

沼田特別支援学校新築工事の安全対策について



「健康めまた21」での
身体活動・運動部門
の推進について
高齢者の運転免許証
自主返納推進へのサ
ポートについて

井之川 博幸 議員



市有地及び市有施設
の有効利用について
一般廃棄物最終処分
場について
沼田公園内文化財移
転について

野村 洋一 議員

Q1 「健康めまた21」における「日頃から健康のために意識的に体を動かしている人の割合」などの目標値達成についてどう考えているのか伺います。

A1 引き続き健康関連の事業を推進し、市民の健康意識の向上に取り組んでいきます。

Q2 ウォーキング利用者の多い環状線外回り歩道を含めたコースを設定し紹介コースに追加することに伺います。

A2 ウォーキングコースについては、市ホームページなどにより周知し、これからも随時、追加していきます。

Q1 「健康めまた21」における「日頃から健康のために意識的に体を動かしている人の割合」などの目標値達成についてどう考えているのか伺います。

A1 引き続き健康関連の事業を推進し、市民の健康意識の向上に取り組んでいきます。

Q2 ウォーキング利用者の多い環状線外回り歩道を含めたコースを設定し紹介コースに追加することに伺います。

A2 ウォーキングコースについては、市ホームページなどにより周知し、これからも随時、追加していきます。

Q1 本市の市有地及び市有施設の有効利用についてPFI手法で民間のノウハウを取り入れて、検討してみてもどうか。

平川小学校校舎、利根小学校校舎、下川田町訓練校跡地、奈良・秋塚ゴルフ場計画跡地、沼田公園グラウンド等未利用のまま放置されているが、これらの市有施設をPFIで活用できないのか市長に伺います。

A1 公共施設の更新等に民間の資金や経営能力及び技術的能力を活用していくPFIの手法は大変有効であると考えておりますが、PFIがすべてに当ては

Q1 本市の市有地及び市有施設の有効利用についてPFI手法で民間のノウハウを取り入れて、検討してみてもどうか。

平川小学校校舎、利根小学校校舎、下川田町訓練校跡地、奈良・秋塚ゴルフ場計画跡地、沼田公園グラウンド等未利用のまま放置されているが、これらの市有施設をPFIで活用できないのか市長に伺います。

A1 公共施設の更新等に民間の資金や経営能力及び技術的能力を活用していくPFIの手法は大変有効であると考えておりますが、PFIがすべてに当ては

Q3 環状線外側歩道の夜間利用者に配慮する防犯灯など照明器具の設置について伺います。

A3 該当の町の区長さんから申請をしていただいた上で、対応していきます。

Q4 高齢者の運転免許証自主返納推進へのサポートについて、本市における高齢者の交通事故数の推移について伺います。

A4 沼田警察署管内では平成28年10月末現在で251件の人身事故が発生しており、その内の68件が高齢者による事故です。毎年100件前後の高齢者の人身事故が発生しています。

Q3 環状線外側歩道の夜間利用者に配慮する防犯灯など照明器具の設置について伺います。

A3 該当の町の区長さんから申請をしていただいた上で、対応していきます。

Q4 高齢者の運転免許証自主返納推進へのサポートについて、本市における高齢者の交通事故数の推移について伺います。

A4 沼田警察署管内では平成28年10月末現在で251件の人身事故が発生しており、その内の68件が高齢者による事故です。毎年100件前後の高齢者の人身事故が発生しています。

Q2 一般廃棄物最終処分場について、最終処分場はいわゆる迷えるのか難しい問題があります。PFIは大手企業の参入が予想されます。したがって、地元企業の参入が厳しくなる可能性を懸念しなければならぬと考えております。

公共施設等の総合管理を進めていく上で、市有施設の有効活用と低廉で高品質な住民サービスが提供できるよう、PFI、指定管理者制度及び民間委託の推進などの「官民連携」について、検討を進めてまいりたいと考えております。

Q2 一般廃棄物最終処分場について、最終処分場はいわゆる迷

Q2 一般廃棄物最終処分場について、最終処分場はいわゆる迷えるのか難しい問題があります。PFIは大手企業の参入が予想されます。したがって、地元企業の参入が厳しくなる可能性を懸念しなければならぬと考えております。

公共施設等の総合管理を進めていく上で、市有施設の有効活用と低廉で高品質な住民サービスが提供できるよう、PFI、指定管理者制度及び民間委託の推進などの「官民連携」について、検討を進めてまいりたいと考えております。

Q2 一般廃棄物最終処分場について、最終処分場はいわゆる迷

Q5 運転免許証を自主返納した高齢者への本市における支援の実施について伺います。

A5 現在のところ、本市では具体的な取り組みは行っていません。

Q6 運転経歴証明書の提示による本市内の企業や店舗でのサービス施策について伺います。

A6 市内については、現状把握できておりません。現在、多角的な観点での移動支援について、庁内で協議を始めたところがございますので、本件についてもその中で総合的に研究していきます。

Q7 バス路線のいっそうの充実

Q5 運転免許証を自主返納した高齢者への本市における支援の実施について伺います。

A5 現在のところ、本市では具体的な取り組みは行っていません。

Q6 運転経歴証明書の提示による本市内の企業や店舗でのサービス施策について伺います。

A6 市内については、現状把握できておりません。現在、多角的な観点での移動支援について、庁内で協議を始めたところがございますので、本件についてもその中で総合的に研究していきます。

Q7 バス路線のいっそうの充実

惑施設です。建設地の選定や高額な建設費など、自前で持つとかなりハードルが高く難しい施設であることは承知をしておりますが、市長の率直なお考えをお聞かせください。

A2 本市では、「不燃ごみ」「がれき」「焼却灰・飛灰」等については、平成24年11月から各処理会社に委託をしています。

今後循環型社会の構築に向け、引き続き市民のみなさんに分別の徹底と資源化の推進を啓発し、ごみ減量を促進しながら、現時点では委託処理の方向で考えております。

惑施設です。建設地の選定や高額な建設費など、自前で持つとかなりハードルが高く難しい施設であることは承知をしておりますが、市長の率直なお考えをお聞かせください。

A2 本市では、「不燃ごみ」「がれき」「焼却灰・飛灰」等については、平成24年11月から各処理会社に委託をしています。

今後循環型社会の構築に向け、引き続き市民のみなさんに分別の徹底と資源化の推進を啓発し、ごみ減量を促進しながら、現時点では委託処理の方向で考えております。

Q8 中心市街地へのバスターミナルの設置について伺います。

A8 今後、グリーンベル21が市庁舎を含めた複合施設として再生されることなどを踏まえながら、検討していきます。

Q9 第3セクターでのデマンドバス・タクシーの実施について伺います。

A9 第3セクターのメリットを活かすのは難しいと考えています。

Q8 中心市街地へのバスターミナルの設置について伺います。

A8 今後、グリーンベル21が市庁舎を含めた複合施設として再生されることなどを踏まえながら、検討していきます。

Q9 第3セクターでのデマンドバス・タクシーの実施について伺います。

A9 第3セクターのメリットを活かすのは難しいと考えています。

Q3 沼田公園内の旧土岐家住宅洋館、旧生方家住宅の移設について、街なか2街区に移築が決まった旧土岐家洋館の話について、旧生方家住宅も2街区に移築すべきと考えますが教育長の考えを伺います。

A3 旧生方家住宅は国指定の重要文化財のため、様々な法律の規制がかり移築は極めて困難と考えます。

街なか2街区へ生方記念文庫及び旧沼田貯蓄銀行が移転整備され、旧土岐家住宅洋館を移築整備して文化財建築物の集積を図っていく考えです。

Q3 沼田公園内の旧土岐家住宅洋館、旧生方家住宅の移設について、街なか2街区に移築が決まった旧土岐家洋館の話について、旧生方家住宅も2街区に移築すべきと考えますが教育長の考えを伺います。

A3 旧生方家住宅は国指定の重要文化財のため、様々な法律の規制がかり移築は極めて困難と考えます。

街なか2街区へ生方記念文庫及び旧沼田貯蓄銀行が移転整備され、旧土岐家住宅洋館を移築整備して文化財建築物の集積を図っていく考えです。

**新年度予算について
グリーンベル21につ
いて
幼稚園の運営につ
いて**
**沼田市奨学金制度に
ついて**
大東 宣之 議員



る中、国・県等の動向も踏まえ、有利な財源を活用しながら、市税など自主財源の確保を図るとともに、歳出では、経常経費の動向に留意しながら、投資的経費を確保するなど、持続可能な財政運営を図ります。

Q4 テナントの出店予定、庁舎移転、市民活動スペース等の整備にむけた取り組み状況はどのようになっているのか伺います。

A4 商業テナント事業者につきましては、3事業者を優先交渉権者として決定し、庁舎移転に関する取り組みについては、来庁された方が利用しやすい庁舎になるよう調整を進めております。

Q5 市民活動施設・業務施設につきまして、それぞれの施設を担当する職員や運営団体などの意見をもとに、継続して設計を進めております。

Q6 市立幼稚園の充実にどう取り組み、幼稚園保育料についてどう考え対応するのか伺います。

A5 子育て相談や幼児教育の研修の拠点となる地域のセンター的役割を果たしたり、特別な支援を要する子どもへの幼児教育の質の向上を図っていただけるよう考えております。

保育料の見直しへの対応については、各園における一時預かり事業の実施や統合園における通園バスの導入などについて、市の財政状況等も勘案しながら研究していく考えです。

Q6 給付型奨学金制度の創設について今後どのように検討するのか伺います。

A6 本市での給付型奨学金制度を創設することについては、対象者の選定にかかわる学力要件や家庭の経済状況などの判断軸の決定などの運用面や、財政面などの課題もありますので、今後、研究していきたいと考えています。

Q1 新年度予算編成に向けてどう取り組むのか伺います。

A1 厳しい財政状況下、市民ニーズを的確に反映するため、コスト意識を持って「選択と集中」により、事業の具現化を図ることを基本としていく考えです。

Q2 重点施策はどのようなことを考え、取り組むのか伺います。

A2 市民との連携・協働の下、創造性豊かで明るく元気なまちづくり、夢と希望が持てるまちづくりに取り組めます。

Q3 予算規模と今後の財政推計をどう考えているのか伺います。

A3 一般財源の減収が想定される中、国・県等の動向も踏まえ、有利な財源を活用しながら、市税など自主財源の確保を図るとともに、歳出では、経常経費の動向に留意しながら、投資的経費を確保するなど、持続可能な財政運営を図ります。

**沼田市議会の
政務活動費の交付について**

近年、議会会派又は議員に交付される政務活動費の不正支出等の問題が大きくクローズアップされています。

こうした背景を受け、沼田市議会では、交付される活動費の源泉は市民の血税であり、真に必要とされる政務の調査等に資する費用として活用し、改めて市民の不信を招くようなことのないよう再確認をいたしました。本市では、「政務活動費の交付に関する条例」に基づき、議

年額議員一人12万円

なお、残金がある場合は返還しております。

政務活動費の交付を受けた会派又は会派外議員は、事業報告及び収支報告書（領収証添付）を議長に提出し、その後、議長より市長へ報告しています。

市議会ホームページにて公開し、新年度からは領収証のコピーも公開いたします。



傍聴へ来ませんか

次回の定例議会は、2月28日の火曜日、午前10時からを予定しています。

平成29年度の予算審査等が行われますので、市民の皆様は傍聴で、なお一層の緊張感のある議会となります。

ぜひ傍聴にお越しください。

会派名	人員	交付額	支出額	戻入額	会派名	人員	交付額	支出額	戻入額
新政同志会	8	800,000円	764,852円	35,148円	星野妙子	1	未申請	-	-
日本共産党 沼田市議団	2	200,000円	200,000円	0円	金子浩隆	1	100,000円	99,598円	402円
沼愛クラブ	5	500,000円	0円	500,000円	井上 弘	1	未申請	-	-
永井敏博	1	100,000円	98,856円	1,144円	高柳勝巳	1	未申請	-	-

平成27年度会派別収支報告
〔平成27年5月11日〕
平成28年3月31日

※当該年度は改選年度となり、政務活動費の支給額も月割りで計算され、総額は10万円となっています。